

メキシコ・日本アミーゴ会
2016年メキシコ歴史文化講演会

「メキシコの歴史で活躍した女性たち」

メキシコの歴史上に登場した女性たちについて、各時代の専門家である女性講師5名から解説をして戴くという挑戦的な講演会を企画しました。メキシコの歴史のそれぞれの時代に活躍した女性を通して、その時代背景を理解し、より深くメキシコを知って戴くことを目的として、5回シリーズの講演会となりました。お誘い合わせのうえご参加下さい。

2016年3月

開催概要(共通)

日時：2016年4月6日(水)、5月12日(木)、6月24日(金)、7月29日(金)、8月31日(水)

各回共通：18:00～20:00 (開場 17:30) (講演 90分+質疑応答 30分)

会場：メキシコ大使館別館5階「エスパシオ・メヒカーノ」 定員：100名(先着順)

主催：メキシコ・日本アミーゴ会 協力：メキシコ大使館 参加費：無料

申込：メキシコ・日本アミーゴ会(info@mex-jpn-amigo.org)宛てメールにて「講座名・参加者氏名(フリガナ)・メールアドレス・所属(アミーゴ会員/非会員)」を明記してお申し込みください。

第1回：征服期 開催日：4月6日(水) 18:00～20:00

演題：「エルナン・コルテスのメキシコ征服と女性たち」

講師：伊藤滋子(いとう しげこ)さん

大阪外国語大学卒業。メキシコ、アルゼンチン他ラテンアメリカ各地に在住。

『ラテンアメリカ時報』(ラテンアメリカ協会)に『歴史の中の女たち』連載中。

要旨：1519年、メキシコでの初戦に勝利したコルテスは、タバスコの首長から美しく聡明な女奴隷マリンチェを贈られた。彼女は有能な通訳あるいは助言者としてコルテスに付き添い、メキシコの征服に重要な役割を果たした。しかし、征服が終わるとコルテスの数多い女性の一人となり、彼の子を生むが子供は取り上げられてスペインへ送られ、彼女自身は部下の一人と結婚させられた。一方、アステカ皇帝モクテスマの娘テクイチポ、後のイサベラは高貴な身分ゆえにアステカ人と3度、征服後はスペイン人と3度結婚し、コルテスの子供を一人生んだ。メキシコ征服の渦中に、コルテスに運命を翻弄された女性たちの数奇な生涯を紹介する。

第2回：コロニアル期 開催日：5月12日(木) 18:00～20:00

演題：「ソル・フアナ＝イネス・デ・ラ・クルスについて～修道女でバロック詩人」

講師：田村さと子(たむら さとこ)さん

帝京大学外国語学部教授。学術博士。お茶の水女子大学卒業、メキシコ国立自治大学でラテンアメリカ文学を、マドリード・コンプルテンセ大学で詩論を学ぶ。

要旨：修道女ソル・フアナ(1648 - 1697)は17世紀のスペイン植民地メキシコの副王時代の社会で活躍したアメリカ大陸初のバロック詩人で、その名声はスペインにも届き「アメリカの10人目のミューズ」と称えられた。女性への社会的制約の克服をめざし、女性が社会で役割を果たすことができ、果たすべきであることを実証した大陸初のフェミニストとして尊厳のシンボルでもある。美と文化の発信地である宮廷の女官から、学問と創作活動に専念するために修道院生活に入り、詩人としての絶頂期に高位聖職者の権力闘争に巻き込まれて文学を断念した。多くの宗教詩と恋愛詩、散文の中から代表作を読む。

メキシコ・日本アミーゴ会
2016 年メキシコ歴史文化講演会

「メキシコの歴史で活躍した女性たち」

第3回：改革期 開催日：6月24日(金) 18:00～20:00

演題：「メキシコ帝国再建の夢と皇后カルロッタ」

講師：立岩礼子（たていわ れいこ）さん

京都外国語大学教授。元放送大学客員教授。スペイン国立通信大学(UNED)地理歴史学部博士課程修了。博士（歴史学）。京都ラテンアメリカ研究所主任研究員。日本イスパニア学会理事。元NHK スペイン語ラジオ講座講師。

要旨：メキシコ独立後も欧州列強はメキシコを手中にしようと躍起で、フランスのナポレオン三世の思惑がメスティソによる権力奪取を阻止したいメキシコの保守派と結びつき、メキシコに帝政を再建する脚本が用意された。この茶番の主役に抜擢されたハプスブルグ朝オーストリア皇帝の弟マキシミリアーノとベルギー国王の娘カルロッタの夫婦は、1864年6月初頭チャプルテペック城に入場した。しかし、フアレス率いる自由主義派の勝利で、1867年2月にフランス軍がメキシコから撤退して皇帝は後ろ盾を失った。メキシコ帝国を救うべく皇后カルロッタは動き出す。

第4回：近代 開催日：7月29日(金) 18:30～20:00

演題：「フェミニズム運動に影響を与えた国際的画家 フリーダ・カーロ（1907-1954）」

講師：山本厚子（やまもと あつこ）さん

慶応義塾大学文学部史学科卒。スペイン国立マドリッド大学(現コンプルテンセ)留学。
ノンフィクション作家。日本ジェンダー学会理事。

要旨：47年間の人生で30回以上の手術を受ける肉体の苦痛。壁画の巨匠である夫ディエゴ・リベラの背信行為に悩み、描いた絵画は200点余。そのテーマは、愛、性、自らのアイデンティティーなど多様で、ジェンダー問題としてとらえうる。ラテンアメリカ地域のフェミニズム運動に、国際的な画家としてフリーダ・カーロは影響を与えた。時代背景、生い立ち、国際画壇登場、絵画に表現されるテーマ、フェミニズム運動への影響などを明らかにする。

第5回：近現代 開催日：8月31日(水) 18:00～20:00

演題：「女性作家ロサリオ・カステリャノス～小説作品にみるメキシコ社会と女性の生き方」

講師：洲崎圭子（すさき けいこ）さん

お茶の水女子大学大学院博士後期課程在籍、メキシコ政府奨学生としてメキシコ大学院大学に留学。専攻はラテンアメリカ文学／フェミニズム批評。

要旨：詩人、小説家、批評家、劇作家、外交官、知識人ーロサリオ・カステリャノス(1925～1974)はさまざまな顔をあわせもつ。先住民擁護主義文学に新風を吹き込んだと誉れが高い彼女の小説群においては、チアパスの田舎町を舞台にさまざまな女性の人生が描かれる。カステリャノスの小説作品を取り上げ、閉鎖的社会に生きる女たち／男たちが、どのような振る舞いを期待されたかについて考察し、女性作家が社会に発したメッセージを探る。彼女の流れをくんだ若手の現代女性作家たちが活躍している様子も取り上げたい。

以上